



日持ちが良く良食味
加工に向く
短節間性かぼちゃ

おいとけ栗たん

「おいとけ栗たん」は、
収穫後の貯蔵性が高く、
国産かぼちゃの供給が少ない
端境期(はごかいき)向けの品種です。
また、加工用にも最適です。
果実は株元近くにつくので
省力栽培に向いています。

育成期間

平成22年 ▶ 平成28年

品種の特徴

- 収穫後3ヶ月間貯蔵可能
- 短節間品種で栽培がしやすい
- 果実が株元に着果するので収穫しやすい
- 青果用途に加えて加工用にも向く



農研機構

北海道農業研究センター

長期間の貯蔵でも食味が長持ち、
ホクホクして美味しく、栽培、収穫が楽、
実が大きく、色味の良い加工向き、
待望の新品種

おいとけ栗たん

農研機構は株式会社渡辺採種場と共同で、国産かぼちゃの供給が少ない12月～5月の端境期（はざかいき）向けのかぼちゃ新品種「おいとけ栗たん」を育成しました。収穫後3ヶ月間貯蔵しても高い糖度とホクホクとした食感を維持することから、青果用途に加えて特に端境期のペースト加工などの原料用に最適です。また、果実は株元近くにつくので省力栽培に向いており、大果で収量性も高い品種です。

特徴

- 貯蔵3ヶ月後の果肉色は橙黄～橙で明るく、Brix、乾物率は既存品種より高く、高糖度、高粉質なので貯蔵後の品質は優れます。
- 生育初期は短節間性で側枝の発生が少なく、果実は株元に着果するため収穫作業が容易です。また、密植栽培により収量増が望めます。
- 貯蔵3ヶ月後のペースト加工の歩留まりは高く、肉色は濃い黄色で明るいため栄えが良いです。加熱後の糖度が高く、ペースト加工適性は優れます。

栽培上の注意

- 北海道などの春播き露地栽培、本州、九州地域等の端境期出荷に向けた抑制栽培に適します。高温時期の栽培では、雌花の着生不良が生じる場合があります。
- 密植栽培（畝幅150～200cm、株間50～60cm。または、畝間300cm、株間50cm、2条植え）に適します。

品種の名前の由来

「おいとけ」は置いておける貯蔵向きを示し、「栗」かぼちゃであること、省力生産が可能な「短（たん）」節間の特性を表します。

おいとけ栗たんの主な特性

品 種	果肉色	Brix (%)	乾物率 (%)	節間長 (cm) (15節まで)	側枝数 (30cm以上)	1果重 (kg)	ペースト加工 歩留まり (%)	加熱後糖度
おいとけ栗たん	橙黄～橙	17.2	24.2	54.9	1.0	2.08	114.4	13.7
普通品種	濃黄～橙黄	13.6	17.0	105.5	5.5	1.67	80.5	10.2



普通品種の畝幅

主枝（親づる）、側枝が奔放に伸びるので適宜に整枝・誘引が必要で、畝幅も広く確保しなければならぬ。

おいとけ栗たんの畝幅

生育初期は主枝が伸びず、発生も少ないため畝幅が狭くてすむ「おいとけ栗たん」。



ペースト加工品の色調

「おいとけ栗たん」は濃い黄色で明るく色調が優れている。これに対して普通品種はやや黒ずんだ黄色で、色彩が劣る。

種子の入手先

- (株) 渡辺採種場より販売されています。
TEL 0229-32-2221



農研機構 北海道農業研究センター

お問い合わせ先

企画部産学連携室広報チーム TEL 011-857-9260

北農研

検索